

「帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域」最終報告書

1 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域の概要

平成14年度9月現在の推進地域内の以下の児童生徒数

ア 海外帰国児童生徒（海外に1年以上在留）在籍数

	帰国児童生徒国別児童生徒数	小学校	中学校	合計
1	アメリカ合衆国	35	7	42
2	アラブ首長国連邦	1		1
3	インドネシア共和国	1		1
5	英国（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）	6	3	9
7	ケニア共和国	2		2
8	コロンビア共和国		1	1
10	シンガポール共和国	4	6	10
11	スウェーデン王国	3	1	4
12	スペイン	1	1	2
13	タイ王国	4	2	6
14	大韓民国	1		1
15	台湾（台湾）	1		1
16	タンザニア連合共和国	2		2
17	中華人民共和国	7	1	8
18	チリ共和国	1		1
19	ドイツ連邦共和国		2	2
20	ニュージーランド	1		1
21	ノルウェー王国		2	2
22	フィリピン共和国	5		5
23	ブラジル連合共和国	1	1	2
24	フランス共和国	1		1
25	ベルギー王国	2	1	3
26	香港特別行政区（ホンコン）	1	1	2
27	マレーシア	2	2	4
28	その他	1		1
	合計	83	31	114

イ 中国等帰国児童生徒在籍数

小学校		中学校		合計	
在籍児童数	在籍校数	在籍生徒数	在籍校数	在籍児童生徒数	在籍校数
1	1	2	1	3	2

ウ 日本語指導が必要な外国人児童生徒在籍数

小学校		中学校		合計	
在籍児童数	在籍校数	在籍生徒数	在籍校数	在籍児童生徒数	在籍校数
28	15	5	3	33	18

推進地域の特色

本市及び周辺部には、海外進出をしている企業や、ドイツ国立情報処理研究所（GMD）- JAPAN研究所や英国クランフィールド大学北九州研究所などの北九州学術研究都市をはじめ、北九州市立大学、産業医科大学、九州工業大学、九州国際大学など、海外の大学や研究機関等と

交流を行なっている大学が多く留学生も多い。また、北九州市輸入促進センター及びそれに関わる外国企業の進出等も加わり、外国人児童生徒数が増加傾向にある。

(1) 帰国・外国人児童生徒の周りの児童生徒への適応指導

帰国・外国人児童生徒と共に周りの児童生徒が成長する過程で、周りの児童生徒への適応指導を実施している。

(2) 帰国・外国人児童生徒の保護者への適応指導

帰国・来日したばかりの帰国・外国人児童生徒の保護者自身が、先ず日本の生活や習慣に適応することが、児童生徒の精神的な安定に繋がるという考えのもと、帰国・外国人児童生徒の保護者への適応指導（主に相談活動）を実施している。学級担任と専任教員が連携をとりながら実施している。

2 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域センター校の概要

センター校名（小学校）	北九州市立小倉中央小学校		校長	宮澤 洋二										
学 校 規 模	学級数	15	児童数	338	養護学級	3	児童数	15						
住 所	北九州市小倉北区堺町二丁目4番1号 TEL 093-521-1097 FAX 093-521-0942													
外国人児童生徒の受入方針	北九州市国際化推進センター校として、市内全域から積極的に外国人児童の受入を図っている。													
センター校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒数等	6名		韓国語	2名	タガログ語	3名	パキスタン語	2名	英語	1名	中国語	1名	メキシコ	1人
センター校への通級児童生徒数（センター校を除く）														
学 校 名		日本語指導が必要な外国人子女数	うち、センター校へ通級する人数		母語別人数（通級）									
田野浦小学校		1名	1名		中国語1名（1）									
港が丘小学校		1名	1名		タガログ語1名（1）									
計		2名	2名		中国語1名（1） タガログ語1名（1）									
センター校での指導時間及び指導内容														
韓国の女子は、生活言語がかなり理解できるようになった。学習でもかなり付いていけるようになった。そこで、1週間に1回放課後の取り出し指導を実施している。														
韓国の男子は、生活言語はかなりできるようになった。全教科教室で学習するようにして、1週間に1回放課後の取り出し指導で学習言語の習得を目指している。														
フィリピンの女子は、国語の時間には取り出しで文字指導を重点的に実施している。ものの名前が20種類くらい言えるようになった。														
パキスタンの兄弟は、学級に慣れてきて笑顔が見られるようになった。兄は、全教科学級で学習できるようになった。妹は、会話はできるが促音や長音が苦手な方である。1週間に3時間取り出し指導を実施している。														
フィリピンの男子は、自然教室への参加から、学級になじんできた。														
メキシコの女子は、1日1時間取り出しを実施している。次第に学級に適応し始めている。														
中国の女子は、母語が話せる子どもを交えて話したり、日本語指導員と一緒に保護者と話したりして児童の適応を図っている。														

センター校名(小学校)	北九州市立あやめが丘小学校		校長	秋永 知之				
学 校 規 模	学級数	18	児童数	517	養護学級	0	児童数	0
住 所	北九州市戸畑区沢見二丁目3番1号 TEL 093-881-3003 FAX 093-881-3028							
外国人児童生徒の受入方針	北九州市国際化推進センター校として、市内全域から積極的に外国人児童の受入を図っている。							
センター校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒数等	3名		中国語 3名					
センター校への通級児童生徒数(センター校を除く)								
学 校 名	日本語指導が必要な外国人子女数	うち、センター校へ通級する人数	母語別人数(通級)					
中井小学校	1名	1名	タガログ語1名(1)					
小石小学校	1名	1名	英語1名(1)					
皿倉小学校	1名	1名	中国語1名(1)					
天籟寺小学校	1名	1名	中国1名(1)					
本城小学校	2名	2名	英語2名(2)					
池田小学校	1名	1名	タガログ語1名(1)					
医生丘小学校	1名	1名	モンゴル1名(1)					
到津小学校	1名	1名	中国語1名(1)					
計	9名	9名	中国語3名(3) タガログ語2名(2) 英語3名(3) モンゴル1名(1)					
センター校での指導時間及び指導内容								
3人の中国人児童に、市の嘱託の日本語指導員が、週2回(1回2時間程度)本校に派遣されているので、市委嘱の日本語指導員と専任教員がT・Tを組んで日本語指導を実施している。								
6年生は、社会科や理科などで基礎・基本の定着をめざし、取り出しによる教科指導を充実させている。								
3年生は、生活言語の指導を取り出しで実施している。								
3年生は、生活言語はある程度定着しており、クラスで校外学習をするときは、入り込みによる個別指導を実施している。								

センター校名(中学校)	北九州市立菊陵中学校		校長	秋山 昇二				
学 校 規 模	学級数	8	生徒数	247	養護学級	1	生徒数	2
住 所	北九州市小倉北区下富野二丁目2番1号 TEL 093-521-0623 FAX 093-521-5319							
外国人生徒の受入方針	本市教育委員会が指定する外国人生徒の受入センター校でありその目的を達成するために積極的に受入体制の整備・充実を図っている。							
センター校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒数等	3名		中国語 3名					
センター校への通級児童生徒数(センター校を除く)								
学 校 名	日本語指導が必要な外国人子女数	うち、センター校へ通級する人数	母語別人数(通級)					
	0名	0名						
計	0名	0名						
センター校での指導時間及び指導内容								

中国人生徒については英語の時間にそれぞれ取り出し指導を行っている。

社会科と理科などの教科については、専任がＴＴの形で授業に入り、個別に説明を加えるという形態を取っている。特に、中国人生徒については、日本語指導員に日本語指導の半分の時間を理科学習の時間に当ててもらい、小学校の理科の教科書を使用して、生徒の母語（中国語）による指導を行っている。

中国人生徒の文化や母語の保持をさせるとともに、中国文化などを発信するために文化学習会を実施している。

センター校名（中学校）	北九州市立高見中学校			校長	久松 明美			
学 校 規 模	学級数	6	生徒数	180	養護学級	0	生徒数	0
住 所	北九州市八幡東区高見四丁目4番1号 TEL 093-651-1886 FAX 093-651-1899							
外国人子女の受入方針	本市教育委員会が指定する外国人生徒の受入センター校でありその目的を達成するために積極的に受入体制の整備・充実を図っている。							
センター校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒数等	2名			2名				
センター校への通級児童生徒数（センター校を除く）								
学 校 名	日本語指導が必要な外国人子女数	うち、センター校へ通級する人数		母語別人数（通級）				
皿倉小学校	1名	1名		中国語1名（1）				
枝光小学校	2名	2名		中国語2名（2）				
中央中学校	1名	1名		中国語1名（1）				
計	4名	4名		中国語4名（4）				

中国人生徒についてはそれぞれ取り出し指導を行っている。

教科の学習で、社会科や理科、数学の教科については、専任がＴＴの形で授業に入り、個別に説明を加えるという形態を取っている。日本語指導員に日本語指導の時間に社会・理科・数学の学習の時間に当ててもらい、小学校の理科の教科書を使用して、生徒の母語（中国語）による指導を行ってもらっている。

センター校を中心とする帰国・外国人児童生徒指導協力体制について

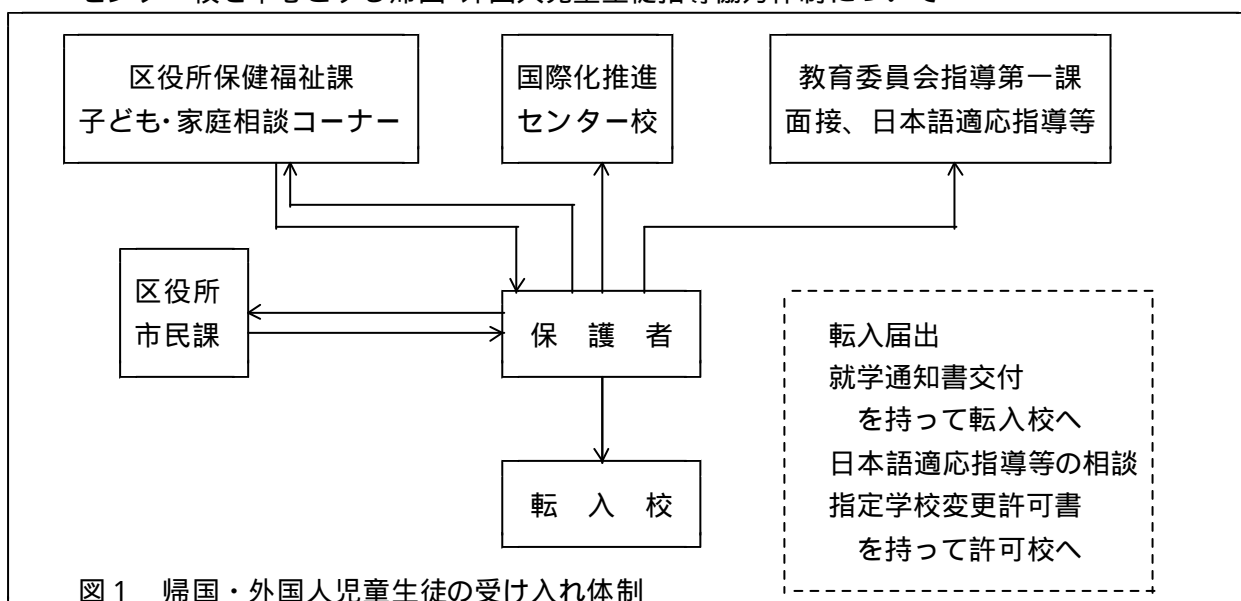
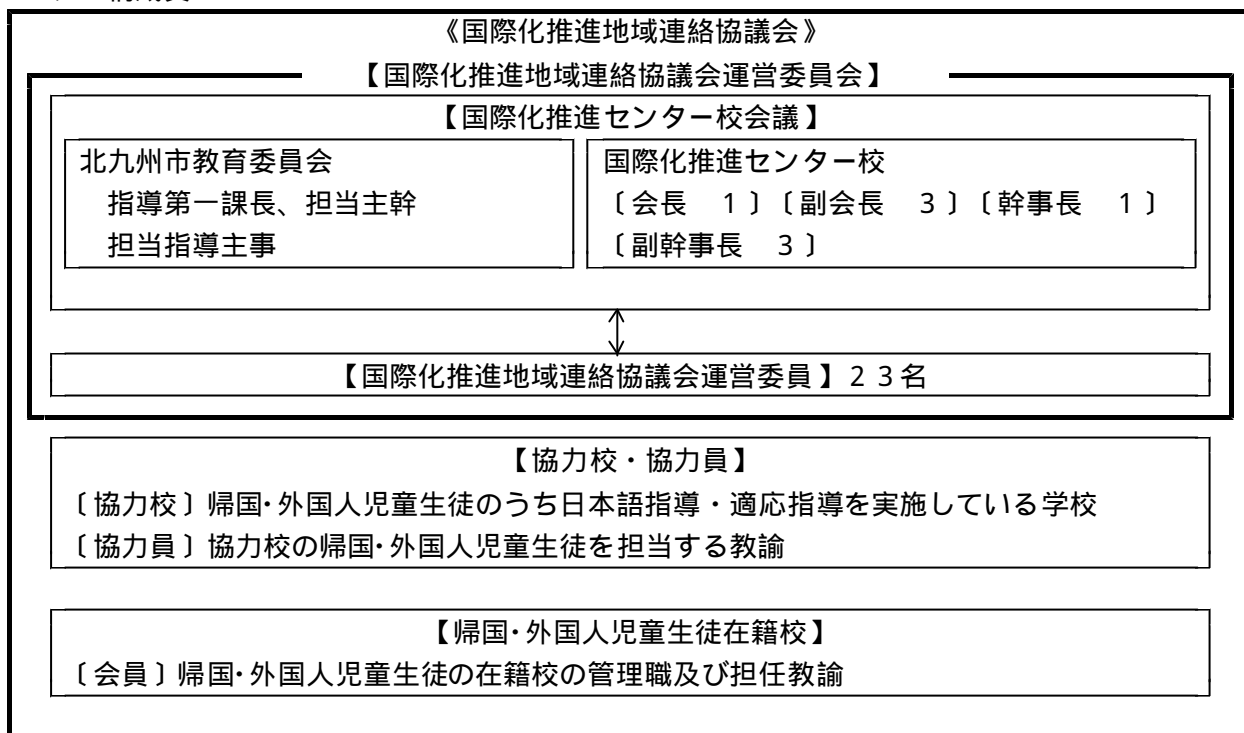


図1 帰国・外国人児童生徒の受け入れ体制

3 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進体制の整備

教育国際化推進連絡協議会の概要

ア 構成員



イ 活動状況（実施した事業について具体的に記述）

a 【国際化推進センター校会議】

- 連絡協議会の中の中心的役割を担い、連絡協議会組織を編成するとともに事業計画を作成し、連絡協議会全体を総括する。

b 【運営委員会】

- センター校会議の作成した事業計画に基づき、運営委員、研究協力校の協力委員とともに、事業運営に当たる。
- 委員長（国際化推進センター校幹事長1名）・副委員長（国際化推進センター校副幹事長3名）は、計画された事業が円滑に実施されるよう、全体をまとめる。
- 助言者（国際化推進センター校校長4名、北九州市教育委員会担当者）は、幅広い知見をもとに、事業運営について指導助言を行う。
- 運営担当者は、その経験を生かし、計画された事業の実施運営に当たる。

c 【協力校】

- 協力校教職員の中から協力委員を依頼する。

ア 推進協議会が開催の各種事業への参加

イ 担当する帰国・外国人児童生徒等の適応指導・日本語指導・素養保持伸長の指導

ウ 帰国・外国人児童生徒等の在籍する学校との情報交換

d 具体的な活動状況

北九州市国際化推進地域連絡協議会の開催（年間2回）

帰国・外国人児童生徒の実態調査（5月1日現在）

帰国・外国人児童生徒の受け入れマニュアル（平成13年3月27日配付）の活用

ふれあい国際交流教室の運営（年4回実施）

目的

集団活動を通じて帰国児童生徒・外国人児童生徒が交流を深め、帰国・外国人児童生徒の特性の保持伸長を図ることを目的とする。

- ・第1回 開級式 6月22日(土)14:00~16:00 あやめが丘小学校 参加者129名
- ・第2回 インターナショナルキャンプ 7月30日~31日 玄海青年の家 参加者86名
- ・第3回 マイタウン・スタディーウォーク 10月12日(土) 到津の森公園
- ・第4回 閉級式 12月7日(土) 14:00~16:30 J O C A九州国際センター
参加者122名

センター校通信の発行(毎月校長会で全校・園に配布)

ウ 協議会設置の効果

ふれあい国際交流教室の一環として行った、「インターナショナルキャンプ」は、帰国・外国人児童生徒、及びその保護者のより一層の交流を深める場を提供するものとなった。

「帰国・外国人児童生徒受入マニュアル」、及び「家庭への連絡文書中国語対訳集」の作成と各学校への配布は、帰国・外国人児童生徒受け入れの各学校への円滑化を促すものとなった。

「センター校通信」や「ふれあい国際交流教室通信」の発行は、本連絡協議会の事業内容等について、全市の教師への周知を促した。

ふれあい国際交流教室では、児童生徒の参加保護者の参加が増え、交流が進んでいる。

加配教員の活用状況

- ・ 帰国・外国人児童生徒等在籍者状況調査の集計
- ・ 日本語指導を必要とする児童生徒の実態把握(転入生も含む)
- ・ 日本指導員の派遣に関する情報提供
- ・ 適応指導、日本語指導に関する学校訪問(日本語指導員とともに適宜巡回)
- ・ 連絡協議会が実施する各種事業の計画立案とその推進
- ・ 文部省講習会への参加や先進地域への視察
- ・ 推進協議会の予算の執行
- ・ 国際理解教育管理職講習会の運営・補助

教育相談員の派遣状況及びその効果

本市では、受入体制の充実を図るため6名の日本語指導員を派遣している。

4 平成14年度の具体的な取組内容とその成果等について

研究主題(主題の趣旨・設定理由についても触れること)

「帰国・外国人児童生徒と他の児童生徒が互いのよさを認め合い、共に生きる国際理解教育の推進」

研究主題に関連した活動及びその成果

ア 言語、風俗、習慣等異質な文化環境のもとで生活してきた帰国・外国人児童生徒が、日本語を習得するとともに、意欲的で楽しい学校生活を送ることができ、学習への意欲をもつことができるような具体的な手だてについての実践研究を行った。

イ 日本人児童生徒が、帰国・外国人児童生徒との交流を通じて異文化に接することによって、その違いやよさを感じ、互いを認め合い共に生きようとするための具体的な手立てについての実践研究を行った。

推進地域としての取組及び成果

平成12年度から「ふれあい国際交流教室」は、帰国・来日3年以内の北九州市立の学校に通う児童生徒に限らず、様々な学校(国立、市立、私立)の児童生徒が参加し、交流の輪が広がった。

「センター校通信」や「ふれあい国際交流教室通信」の発行。

ふれあい国際交流教室では、児童生徒の参加保護者の増加。

外国人児童生徒の日本語指導の充実、学校へのスムーズな適応。

帰国・外国人児童生徒とその他の児童生徒の相互啓発の観点による取組及びその成果

ふれあい国際交流教室の一環として行った、「インターナショナルキャンプ」は、帰国・外国人児童生徒、及びその保護者のより一層の交流を深める場を提供した。

「帰国・外国人児童生徒受入マニュアル」、及び「家庭への連絡文書中国語対訳集」の作成と各学校への配布は、帰国・外国人児童生徒受け入れの各学校への円滑化を促した。

「センター校通信」や「ふれあい国際交流教室通信」の発行は、本連絡協議会の事業内容等について、全市の教師への周知を促した。

ふれあい国際交流教室では、保護者の参加が増え、交流が進んだ。
地域と連携した活動（地域の人材の活用状況等）及びその成果

（財）北九州国際交流協会の外国人ボランティア、本市の21名のALT、北九州市立大学の学生による日本語指導の実施

連携した団体等の概要

（財）北九州国際交流協会、福岡県国際交流協会、北九州市国際交流室
北九州国際村交流センター、北九州市立大学 等

その他特筆すべき平成14年度の成果

ふれあい国際交流教室で出会った保護者が、保護者の会を発足させ、お互いに悩みや喜びを出し合っていくようになった。

「北九州市学校案内（英語版）」の改訂版作成。

学事課、市民課、子ども・家庭相談コーナー、指導部・学校教育部、国際化推進センター校の連携がスムーズにとれるようになり、帰国・外国人児童生徒の受入が円滑にできるようになった。

平成13・14年度地域指定発表会（菊陵中学校）で波多野ファミリースクールの大蔵先生をお招きして特別授業・講演会を実施したところ参加者の先生方から「大変勉強になった」という声が多く聞かれ、「是非来年もお呼びして欲しい」というご希望までいただいた。日本語指導をどのようにするとよいかという貴重な示唆をいただいた。

平成14年度の課題及び事業計画概要

<課題>

ふれあい国際交流教室において、参加する児童生徒・保護者をさらに増やすとともに、児童生徒同士の心のふれあう活動や保護者同士で悩みや思いをより交流できる内容を企画する。

日本語指導において、学習言語をどのような教材を使って、どのようなステップで指導すると効果的な日本語指導ができるのか。JSLカリキュラム北九州版の完成をしたい。

「北九州市学校案内～英語版～」の活用方法を周知し活用を促進すること。

本年度作成した「日本語初期指導カリキュラム～北九州版～（低学年用）」の活用と（高学年用）作成を検討する。